

合成生物学とは、細胞や生体の一部を人工的に再現することによって、「生命」の特性や進化の機構を解明することや、有用な機能を持つ物質を作成したりすることを目指す先端科学研究分野です。本シンポジウムでは、研究に携わる科学者や公共政策の専門家から話を聞き、研究の現状や社会との相互作用のあり方について議論します。

日時：2011.3.8 tue. 定員100名
要予約

13:30~17:00 (開場・受付 13:00~)

会場：京都大学 東京オフィス
(JR・京浜急行 品川駅より徒歩5分)

料金：入場無料

プログラム

講演 1

「合成生物学でできること、目指されていること」
木賀 大介 (東京工業大学大学院総合理工学研究科)

講演 2

「生命、あるいは社会のアーキテクチャ」
吉澤 剛 (東京大学公共政策大学院)

講演 3

「合成生物学の社会への影響を考える」
菱山 豊 (科学技術振興機構)

パネル討論

木賀 大介、吉澤 剛、菱山 豊、
岩崎 秀雄 (早稲田大学理工学術院)、
小林 傳司 (大阪大学CSCD)

〈司会：加藤 和人 (京都大学人文科学研究所)〉

主催：京都大学人文科学研究所
全国共同利用・共同研究拠点
「人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点」
協力：「細胞を創る」研究会
ゲノムELSIユニット

参加 申込み

参加ご希望の方は、件名を「公開シンポジウム申し込み」として、氏名(ふりがな)、所属、E-mailを明記のうえ、biosoc@if.kyoto-u.ac.jpまでお申し込み下さい。

お問合せ TEL 075-753-9244 FAX 075-753-9245

と社会 合成生物学

先端科学研究の
進め方を考える

公開シンポジウム

会場へのアクセス

